

# 職業リハ学会通信

NO.147 2016年 9月発行

学会大会

## 日本職業リハビリテーション学会 第44回(京都)大会 ご協力ありがとうございました!

会期:2016年8月26日・27日 会場:立命館大学(衣笠キャンパス)

### 大会テーマ:問われる労働の質、支援の質 —職業リハビリテーションの視点から—

8月26日(金)・27日(土)の2日間で無事第44回大会を立命館大学衣笠キャンパスで開催することができました。宿泊先の確保が困難なことなど課題はありましたが、最終的には286人の方々にご参加頂きました。全国各地からお越し下さいました皆様に、改めて御礼を申し上げます。

大会初日は大会長であります峰島厚先生(立命館大)の基調講演から始まりました。今大会テーマであります「問われる労働の質、支援の質～職業リハビリテーションの視点から～」と題して、近年職リハを取り巻く状況から、職リハに関わる立場として、これからも大切にすべき視点について確認する時間となりました。

その後、分科会では政策委員会主催を含め5つのワークショップに分かれ、議論が交わされ、壇上者だけでなく、フロアからもたくさんの意見がなされているところをよく目にしました。夕方から開催された懇親会では、関西弁が沢山飛び交う、ちょっといつもと違った雰囲気の中、交流が広がりました。

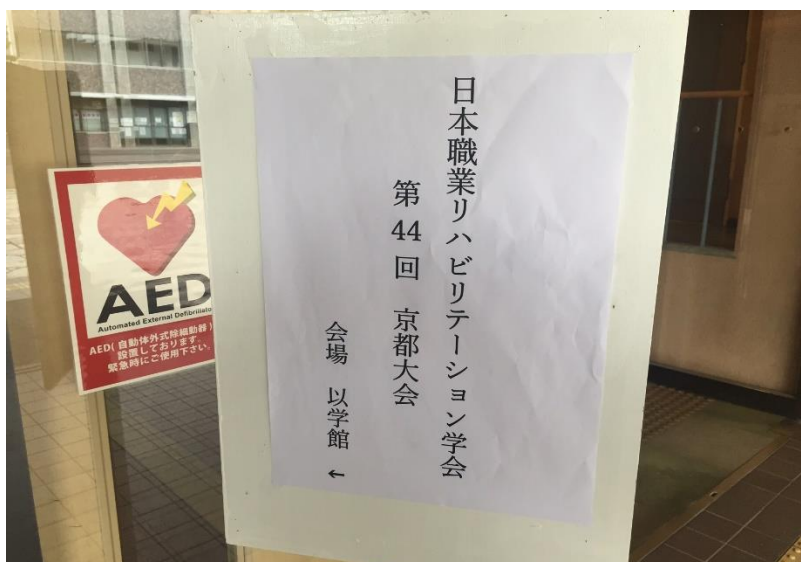
二日目午前中は口頭発表と自主を含むワークショップが2つ開催されました。口頭発表では全39本の発表がありましたが、障害特性に焦点を当てたもの、生活困窮など環境

要因に焦点を当てたもの、人材育成や組織体制の在り方など多岐にわたる発表が今回の特徴だったように思います。同時にポスター発表では14本の発表があり、開催場所となったフロアは多くの方々の意見交換で熱気にあふれていました。

そして、最後のシンポジウムでは大会テーマに即して「労働の質・支援の質を大切にした職業リハビリテーションとは」について、学識者、現場の実践者、司法に携わる立場から、職リハ対象者の広がり、労働形態の多様化、改正障害者雇用促進法や権利擁護の視点から様々な議論がなされました。シンポジウム、そして大会全体を通して、労働の質・支援の質の重要性について再確認できた大会であったのではないかと考えております。

閉会式では、学会大会奨励賞の発表と受賞式が行われ、最後に次回大会の栃木大会の案内があり、全プログラム終了となりました。最後に、今大会の成功に向けてご協力頂いた全ての皆様、大会にご参加下さった皆様に、心より御礼を申し上げます。

第44回大会実行委員長 酒井大介  
(社会福祉法人加島友愛会)



第44回 京都大会



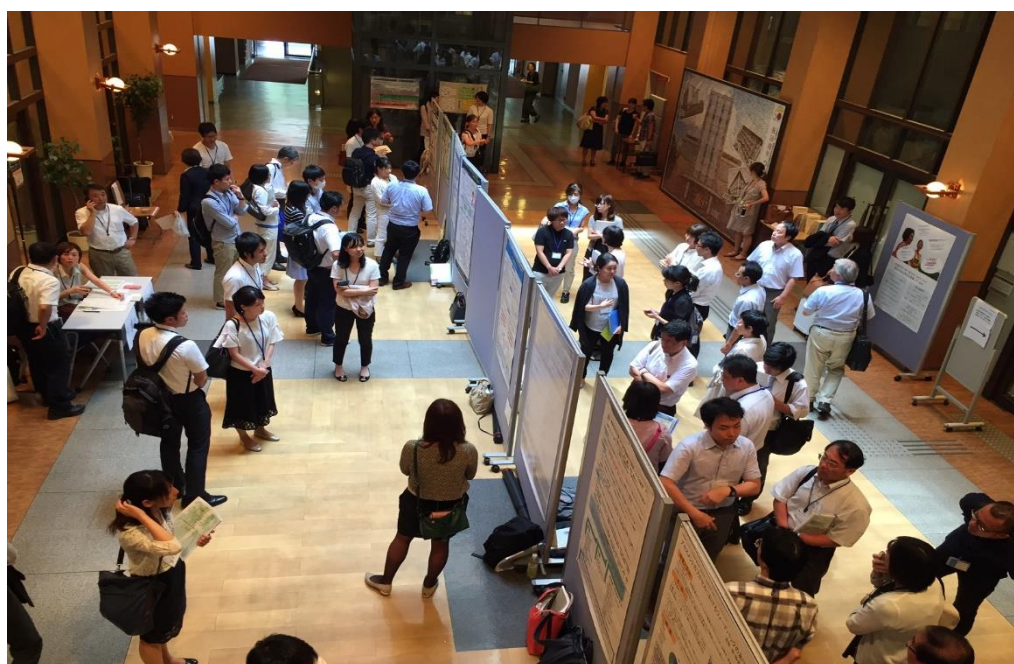
政策委員会ワークショップ



ワークショップ



シンポジウム



ポスター発表

第44回学会大会報告	1P
2016年度会員総会報告	4P
委員会報告	13P
ブロック活動報告	15P
新入会員のお知らせ	16P
事務局からのお知らせ	16P